

清流の国ぎふ

令和5年度

ちょっといい話



日々の生活の中で、ほんの少し相手のことを思っていてかけた「言葉」「行動」に、まわりの空気が温かくなったという経験はありませんか。また、あなたがつらかったとき、苦しかったときにかけられた「言葉」「行動」が励ましになった経験はありませんか。

「このおとな身のまわりで経験した心温まる出来事を」ちよっといい話「として、令和5年の月かひの月上旬にかけて募集したところ、小学校41校、中学校20校、高等学校5校、特別支援学校1校の他、一般の方からの応募も含め6作品を寄せいただきました。その中には、

- ・正直、誠実、責任、勇氣
- ・友情、信頼、献身
- ・克己、忍耐、努力
- ・思いやり、絆
- ・尊敬、感謝
- ・家族愛
- ・命の尊重

といった思いが込められています。

そうした中から、80作品を紹介します。

人を思いやる心や人と人とのつながりを感じていただき、県民一人ひとりが、共によへ生きま合う力をよへへむ機会となれば幸いです。

【おへじ】

【小学生】

- みんなだいすき
：
：
1
- となりのいえのAくん
：
：
2
- おじいちゃん
：
：
3
- ぼくとあかちゃん
：
：
4
- 10人^{にん}みんなであつまりたいな
：
：
5
- おたんじょうびのケーキ
：
：
6
- ことばとえがお
：
：
7
- げんきがでるよ
：
：
8
- やっぱりなかよし
：
：
9
- イライラしていたわたし
：
：
10
- 妹^{いもうと}とうんてん^{てん}手^てさん
：
：
11
- うれしかったな
：
：
12

かわいい妹たち

…
…
13

妹の三年ぶりの決意

…
…
14

わたしとお父さんの手紙

…
…
15

お母さんへのプレゼント

…
…
16

わたしのまわりには

…
…
17

ぼくがとってもうれしかったこと

…
…
18

にじがきれいな日

…
…
19

ひいおばあちゃんのおごっこ

…
…
20

ゆっくりにでもいいのよ

…
…
21

ぼくの妹

…
…
22

おうえんする気持ち

…
…
23

かん拾い

…
…
24

目^{もく}ひようまであと少^{すこ}し

家^か族^{ぞく}のど力^{じよく}

「ぎゅーして」

6人^{にん}のきずな

大^{たい}切^{せつ}な人

みんなにつここにこ

ピアノとセキセイインコ

うれしいお菓^{かし}子のつめ合^あわせ

虹^{にじ}

私^{わたし}のお母^{かあ}さんは、外^{がい}国^{こく}人^{じん}!!

家^か族^{ぞく}のよ^ような存^{ぞん}在^{ざい}

「大^{おお}きいばあ」

・
・
36

・
・
35

・
・
34

・
・
33

・
・
32

・
・
31

・
・
30

・
・
29

・
・
28

・
・
27

・
・
26

・
・
25

分わかっているの？

…
…
37

お母かあさんのためいき

…
…
38

まちがいは宝物たからもの

…
…
39

声こゑのないあいさつ

…
…
40

お父おとうさんの帰りかえり

…
…
41

宿泊研修しゅくぱくけんしゆでの出来事できごと

…
…
42

友ともたちからの応援おうえん

…
…
43

「がんばれー!」

…
…
44

おじいちゃんとお風呂ふろ

…
…
45

【中学生】

生徒会執行部せいとくわいしんぎょうぶ

…
…
46

魔法まほうのお手伝てつたい

…
…
47

さりげない言葉 さりげないことば

・
・
48

『笑顔』 えがお

・
・
49

できなかつたって大丈夫 だいじょうぶ

・
・
50

思いやりをもつ大切さ たいせつ

・
・
51

優しい空間 やさしいくわかん

・
・
52

ちょっとデレが出た妹 で

・
・
53

東京デイズニールンド とうきょうでいずにーらんど

・
・
54

猫はかすがい ねこ

・
・
55

言葉 ことば

・
・
56

世界一周の約束 せかいいっしゅうのちやく

・
・
57

「散歩日記」 さんぽにっき

・
・
58

落とし物 おとしもの

・
・
59

苦手にがてだとしても

・
・
60

繋がつなった！

・
・
61

母はは

・
・
62

ひいおばあちゃんの巾着へんぎやく

・
・
63

個性こせいを大切たいせつに

・
・
64

ちょっとしたことちやうとの大切たいせつさ

・
・
65

自分じぶんの成長せいちょう

・
・
66

ありがとうありがとうの一言ひとこと

・
・
67

母ははからの一言ひとこと

・
・
68

笑顔えがお

・
・
69

コップの水みずを思い出おもしてだ

・
・
70

乾杯かんぱい

・
・
71

【高校生】

たまにある一日の日常

…
…
72

アルバイト

…
…
73

あたりまえに感謝する

…
…
74

友だち

…
…
75

何年経っても

…
…
76

【一般】

義母と娘のやりとり

…
…
77

癒しのことば

…
…
78

お兄ちゃんたちの背中

…
…
79

早く大きくなりたい

…
…
80

小学生版

みんなだうすね

ぼくは、かぞへみんなをいっしょにじかんが、
だうすねです。おはちのうすね、おや
みのうすねは、みんな「キョー」といふを
します。そのうすね、おかあは、「だ
うすねだ。」といふねます。おやの
は、「うすねがうすね。」といふね
す。おじいも、「だうすね。」と
ぼくもみんな「だうすね。」と
みんなが、えがおになっ、うれし
ちになります。



よなりのこいのAと

よなりのこいの、おやのAくんがひっこしてきたよ。ほくは、Aくんは、おもちゃをかしたり、あそびをおみやげたり、じてんしゃであそんだりしたよ。このまえ、Aくんがほくえんを、すきなひとはだれかをきかれたときに、「よなりのこいのMくん」といったらしい。とってもうれしかったよ。Aくんこれからもたくさんあそぼうね。



小学生版

おじいちゃん

ぼくのおじいちゃんは、まじいおはたけ
のうしろをこいでます。こしもらちばんに
おふろにはこいし、おねはやくおまるため
に、はやくねてしまします。そんなおじい
ちゃんに「いゆめめねね。」とこいさう、
うねしそじいかわらうてくれました。



小学生

ぼくはかちゃん

ぼくは、じいさんとあんなに遊ぶことが
できません。おかちゃんとのやぐそ
くがあります。そねは、じいさんとあんな
に遊ぶことができません。

ぼくが、おもちやで遊ぶことがあ
りませんが、おもちやをとったので「じい
ぞ。」とわたくしあげたら、じいぞとあ
んなに遊ぶことができません。そのおか
ちゃんも「あじがよい。」と喜んでいま
は、やぐそとあんなに遊ぶことがあ
りません。



小学生

10人^{にん}みんなであつまりたいな

わたしは、6人^{にん}ですんでいます。おじ
ちゃんかぞくがあそびにきたとき、おとう
とが、

「ぜんぶで9人^{にん}だ。しあわせだね。」

といった。みんな『にににに』になった。そ
して、

「パパがいたら、ちよつと10人^{にん}なのじ。」

といった。じいじでちやむじいじにいるパ
パは、なつもでかえつていねまかせ。

パパがかえつてきたら、こんどは、10人^{にん}
みんなであつまりたいな。



小学生

おたんじょうびのケーキ

わたしのかぞへは、マロン。おたんじょうびのケーキをわけたいから、ほそくなる。だいすきないちじも、まるごと一つたべられない。

「おかめんと、おやじんと、ごまんと、4人かぞへでもよかったなあ。」

っていったら、おにいちゃんか、

「マカいもケーキたべれるんやでー。」

といった。「それもそうか。「ほそいケーキでもがまんするね。マカいもおたんじょうびのおいらいでみるのはわくわくするもんね。」



小学生

いじょうえがお

わたしは、いじょういっしよに、えがお
をそえるよ、きもむがもつとしたわるとお
もいます。パパに、「おじいど、がんばっ
て。」と、えがおでいっしよ「あじがど、がんば
るよ。」とよいっしよいんぐへくれます。わたしが、
げんきがなるとき、ママが「だいじょう
ぶ。」と、えがおでだきしめてくれます。
ママのえがおをみるよ、あんしんします。
わたしも、えがおをわすねず、たのしい
がっこうせいかつを、おくりたいです。



小学生編

おとながたのよ

おむのむらおおおおやとて、おれとど
お。おんおおおはこけおおよ、

「おんおおおおおおおおおおおお。」
「おおおおお、おはこけおおおおおおこ
お。」おんおおおおおおおおお。

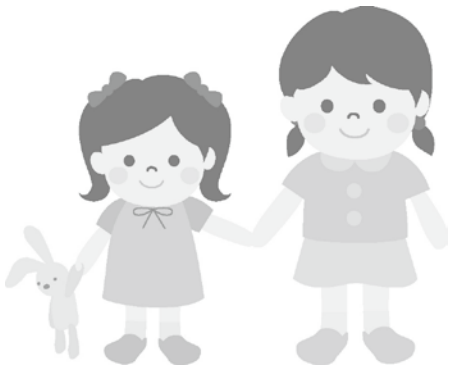
おむのいおが、「おんおおおおおおおお
お、おおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおお。」

おんおおおおおおおおおおおお。



おしゃべりなかなちゃん

わたしは、よくしゃべりなかなちゃんを
 しました。おかしな話、話しかかると
 なかよくしゃべります。「どうして
 そんなとき、しゃべり始めるの
 もしよ。ふふふ。」とわらわ
 てるよ、わたしもわらわらして
 かなちゃん。そのとき、ふたつ
 てあそんで遊ぶ、おかしな話
 りなかなちゃんが
 ね。「どうしてわ
 らう。それを見てわ
 たしともしゃべり
 たいよ。しゃべりな
 かなちゃん。



イライラしていたわたし

水とまつりのかえりに、バスをまっ
ました。バスのよていじごくになっても、
バスがこないことや雨がふってきたこと
にイライラしていました。バスをおりると
き、うんでん手やんに「おやすみなさい。」
と言われました。それまでイライラしてい
ましたが、心が『ほかつ』とあたたかくなり
ました。あいさつは人の心をつれしい気も
ちにさせるまほじの言ばだと思いました。
わたしも、たくさんの人にまほうをかけて
いきたいと思いました。



小学生

妹とうんてん手さん

おかあさんと妹と買い物へ行ったら、
き、ちゅう車じようを歩いていたら、車が
はしってきました。うんてんしていた人は
いそいでいたのか、わたしたちに、はやく
歩いてほしそつでしたが、まだ小さい妹は
歩けません。わたったあと、妹がふりか
えって、おれいのおじぎをしました。すこ
しおっっているように見えたその人のか
おが、えがおにかかりました。
妹をまってくれてありがとううんてんま
した。



うれしかったな

おとうさんが、ベビーカステラを買ってきてくれた。みんなで、四つずつ食べた。わが家に、おむらじーっだけのこったので、ぼくが、たべたいと言ったら、お姉ちゃんが、

「わたしもたべたい。」

と言った。じゃんけんできめようと思ったり、

「しゅつとまって。」

と言って、はんぶんに分けてくれた。

二人でたべるほうほうをみつけてくれて、ぼくは、しゅつとって気分がよくなった。



小学生命

かわいい妹たち

ぼくには妹がいます。三姉と二姉です。

一姉の妹は、やるやるとき、ぼくのふとんにきこいっしよにねます。とくどき、ぼくのうでまくらで、『スヤスヤ』と気持ちよさそうにねています。とってもかわいいです。

妹たちが生まれるときは、おかあさんが入いんだり、いそがしくなったりして、「ちみじいな」と思ったこともありました。

今は、二人の妹とまい日たのしくあそべてしねています。



妹の三年ぶりの決意

わたしには、二つ下の妹がいる。三年前、
 いっしょにピアノを習いはじめたが、妹だ
 け、すぐにやめてしまった。「おねえちゃん
 みたいにひけないから、いや。」これが理由
 だった。夏に、ピアノ発表会があった。今年
 もドレスをきて、わたしと同じかみがた
 で、みにきてくれた。帰り道、妹が「ピアノ
 やりたい。おねえちゃんみたいにひきた
 い。」と言った。「わらうじだ。「しゅからには、
 三年ぶりにいっしょにいけるかもしれないな
 い」と思ひや、ウクウクする。



小学生命

わたしとお父さんの手紙

わたしのお父さんは、おじいじがいそがしくて、帰りがおそいです。だから、わたしはいつも手紙を書いています。

「お父さん、いつもわたしたちのためにおじいじをがえしてあげてあげがじいじ。」「おじいじが、お父さんも、いつも手紙を書いてくれます。」

「いつも手紙を書いてくれてありがとう。」「それを毎朝見て、とてもうれしくなります。これからも、「手紙を書きたいな」と思っていました。」



お母さんへのプレゼント

ぼくのお母さんと、毎日おしゃべりをしたり、おしゃべりをしたりしています。お休みの日は、ぼくの大好きな水族館へつれていってみたいですね。

ある日、お母さんはかたをいたそうにしています。ぼくは心ばかりになって、かたをトントントンとあげました。お母さんは笑顔で、「なおったよ。ありがとう。」と言って、頭をなでてくれました。お母さんが笑顔になってとてもうれしかったです。そして、ぼくは、『かたたたきけん』をプレゼントしました。またしてあげたいです。



小学生会

わたしのまわりには

「うんうん、じゃあ。」「おかげさう。」「お花はなを
おみやげに。」「うん、わたしはたくさん声を
かけてくれる近所ちかところのおばさん、おじさんが
います。はじめは、おばあちゃんかおじちゃん、
少くなく、お話をはなしをしたら、あんなに話をした
りして、うんうん、うんうん、なかなかなれませんでした。
おじちゃん、おばあちゃん、おじちゃん、おじちゃん、
作つくったり、おばあちゃんのお花はなをたくさん
つんだりします。わたしのまわりには家族かぞく
のようなおばあちゃん、おじさんがいてくれ
て、おかげさう。」



小学生命

ぼくがいつてもじねじかつたじつ

ぼくが生まれたばかりのころ、お兄ちゃん

は一年生でした。お兄ちゃんは、しゅく

題でこんなはいくを作りました。

「弟のえ顔がぼくのたから物」

そんなぼくのじつを「思ってくれてたん

だなあ」と、すごく感動しました。

「え顔っていいなあ」と思いました。



小学生命

いじがきれいな日

雨がふったあとに、きれいないじがでました。ぼくは、お母さんを呼びに行きました。そしたらお母さんが、「きれいだね。いじが見えたから、あしたはわすこいじがあるよ。」といきました。ぼくは、

「もうだね。ぼくは、もしゅるいの色がわかるよ。」といきました。お母さんは、おじつた顔だったけど、やさしい顔になりました。だから、かならずいいことがあると思います。



小学生会

ひろおはまはなちゃんのこと

わたしは、8ねこのひろおはまはなちゃん
がいます。遠くに住んでるので会えるの
は夏休みだけです。おばあちゃんは、ぬい
ものやあみものがとても上手です。い
ろいろなものを作ってくれますが、さい近
は、学校にもって行くぞうきんを作ってく
れます。「またぞうきん作っておくから、来
年も元氣に来いよ。」と言ってくれました。
いっしょうけんめい作ってくれたぞうき
んを、大切に使用したいと思います。
おばあちゃんも元氣で
いてね。



小学生命

おしへんじもころのめ

わたしは、本ほんを読よむのがおそいし、書かく
のどつてはやくはなりたいです。かぞへや友ともだ
ちは、書かくのがはやくから、「ころな」とお
もいながら、げいじりました。

家いえにかえって、おかあさんにきいてみま
した。あな、「おしへんじは、おそいけれど
もいんだよ。」とこつてくねました。

わたしは、おかあさんのこつばを聞きいて
「ほし」としました。



小学生篇

ぼくの妹

ぼくには、3才の妹がいます。ぼくは、妹が生まれてから、しょじぎすつとやきもちを焼いています。だから、パパとママが見てない時に、「じいじとじわるをしていました。なので、いつも「お兄ちゃんきらい。」と言われていました。しかし、ある日ママがいなかったので、妹を遊んであげました。その日から、「お兄ちゃん大好き。」と行ってくれます。なんだかともうれしくて、妹がとってもかわいく見えました。



小学生

おうえんする気持ち

ホームステイにきていたりゆう学生と
いっしょに出かけた時に、あるお店の人が
「こんにやくを食べたことある。」「とりゆう
学生に一つくれました。初めてのこんにやく
くに、え顔で「おいしかったでした。ありが
とう。」「とがんばって日本語で伝えていま
した。すると、お店の人は「サービスだよ。」「
日本の生活たのしんでね。」「とお金を受け
取りませんでした。なれない日本での生活
をおうえんしてくれる思いに、心があたた
かくなりました。」



小学生篇

かん拾い

外で遊んでいた時に、知らない人が車から、かんを用水路に投げすていたので、そのかんをあみで拾いました。ぼくは水路がよごれるのに投げすてるのは、大人として悪いなと思いました。でも、用水路にかんがそのまま流れるのを止められたので良かったです。そのかんは、きれいにあらって小学校のリサイクルボックスに入れました。ちやんとごみを分別できてスッキリしました。



目ひょうまであと少し

わたしは今、かみの毛をのばしています。じじいとかとうじい、ヘアドネーションをするためです。ヘアドネーションとは、病気でかみの毛をうしなった子どもたちに医りよう用ウィッグを作るために、かみの毛をきふすることです。わたしは、二年前にテレビでこのことを知りました。かみの毛が長いとシャンプーやかみの毛をかわかすのが大へんだけど、わたしのかみの毛が少しでも役に立つのならと思っています。今がんばってかみの毛をのばしています。



家族のど力かぞくのちから

ぼくのおばあちゃんは、三週間まえからさんしゅうかん急せいの白血びょういという病気で、よ命せんめいせじくも出されてくるほど、ひどくじょうたたいです。一年それとも半年しかよ命がないいちねんので、家族も心配が深まるばかりですが、かぞくそれでも少しの時間を楽しんでもらえるすこよう、日びど力をし続けています。プレゼントひびどちからをあげたり、色々話をきいてあげたいろくわりしています。そして、いつかバアバに、だだいすきつきながら「大好きだよ。」と言ってあげいたいです。家族のど力はかぞくむげんなのです。



「お母さん」

わたしは、よくお母さんに「お母さん、
て。」と言います。お母さんが、お母さん
せなかや頭をとんとんしてくれるよ、お
く安心して、心配や不安がふきとびます。
お母さん世界中の子どもたちも、お母さんの
「お母さん、よくも幸せになります。お母
さんの手はすごいパワーをひめています。
お母さんしてもらえぬよ、何でもがんばって
元気が出てきます。だから、世界中のお母
さんたちの「お母さん、子どもたちを幸せ
いっぱい笑顔にしてほしいです。」



小学生篇

6人のきずな

私の入っている野球少年団は、五年生が6人います。そのうちの4人は、試合をたくさんするAチーム、私ともう一人は、きそ練習をするBチームです。この間、Aチームはバスでひだへ試合に行きました。私も一緒にいいなと思っていたら、Aチームの4人が、6人おそろいのキーホルダーをかってきてくれました。うれしくてすぐにバットケースに付けました。もっと練習をがんばって、五年生6人で、一緒にプレーできるようなりたいなと思っていました。



大切な人

私の大切な人はひいおばあちゃんです。
 八月十日で百一才になりました。

ひいおばあちゃんは、しらゝい時がありました。
 した。そんな時、ひいおばあちゃんは、「早く死にたいなあ。」「とつぶやきました。私は、「おばあちゃんは今、百才だからまた一から人生が始まるよ。」「とはげました。すると、ひいおばあちゃんはなみだを流してよるこんでくれました。

そして、今は、だれよりも元気です。そして、
 います。



みんなじいじい

ぼくのおじいちゃんは、にん知しよ
だ。うしもは、しぼんだ花^{はな}みたいにつつむ
らじじいとしてゐる。でも、ぼくが顔^{かお}をの
ぞきこんで話^{はな}しかけると、満開^{まんかい}の花^{はな}みたい
じじいじじいになって、元氣^{げんき}にしゃべった
り、動^{うご}いたらすぬいじがある。その時^{とき}、おじ
いちゃんのまわりにいる人^{ひと}みんな「じじ
いじい。だ。ぼくもめいぢやないぞじじい。
おじいちゃん、いねからもげんきに長生^{ながい}
きしてね。



「ピアノとセキセイインコ」

ぼくは、ピアノを習まなっています。でもなかなかすぐにはうまく弾ひけません。練習れんしゅうがうまくいかないない時ときは、ピアノを弾ひきたくなくななります。でも、ピアノを弾ひき始めはじめななきまって飼かっているペットのセキセイインコが飛とんで来きてくれます。肩かたや鍵盤けんぱんに乗のって、リズムに合あわせて一いっしょ緒ごにさえずってくれます。ぼくは、楽たのしくなり、ピアノの練習れんしゅうも頑がん張ばるこじがでまります。

インコの「おんくちやん」と、いつも一いっしょ緒ごにピアノの練習れんしゅうに付つき合あってくれてありがとう。



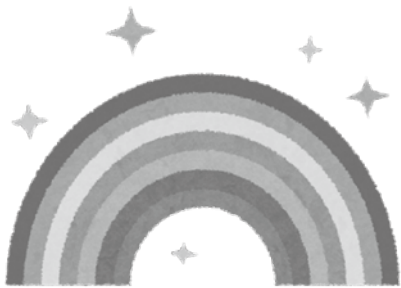
うれしいお菓子のつめ合わせ

イベント等に参加すると、お菓子のつめ合わせをもらうことがあるが、私には、家族にあげている。それは、私は食物アレルギーがあつてほとんど食べられないからだ。でもある時、友だちから「全部食べられるよ。はいどうぞ。」と言われてもらった袋の中は、全部食べられるお菓子だった。私のアレルギーを覚えてくれていたこと、お店で一つ一つ確認してくれたこと、そんな友だちのやさしさがうれしくて、忘れられない出来事になった。



虹

私のおばあちゃんが、なくなりました。
お花を教えてもらったり、おいしいお菓子
をもらったりした大事な人でした。お骨を
京都におさめに行くとき、二本の虹が真っ
すぐ立っていました。一本は、おばあちゃ
ん、もう一本は、パパに話を聞いていたお
じいちゃんだと思いました。新幹線に乗る
ころ、その虹は、きれいにつながっていま
した。
二人は、天国でしっかり出会えたんだな
と思いました。



私のお母さんは、外国人!!

わたしのお母さんは、中国人です。そのため、まだわからない日本語もあって話するときよくわからないことがあります。けれど、それがおもしろくて、家ぞくみんながわらってとってもあたたかくなります。

わたしのお母さんは、よくわからないことを言うけど、それがわたしの家ぞくをあたたくしてくれくれます。だから、わたしのお母さんは、「じまんののお母さんですー」。



家族のような存在

私が住んでいる地域では、朝や帰りに近所の人々が、だれにでも「いらっしゃい」とか「おかえり。」と声をかけてくれます。あまり話したことがない人でも、すれちがうと声をかけてくれます。まるで家族のような温かさを感じます。ちよつとつかれていても、いやなことがあっても、そんな地域の人の声を聞くと、心がほつとします。あたたかい地域の人に見守られて生活できる日常を、とても幸せに感じています。



「大きいばあ」

ぼくには、94才わじになるひいおばあちゃん
がいます。みんなは、「大きいばあ」と呼よん
でいます。ぼくたちが会あいに行くと、こ
こしながら「おまはんだねやね。」と言い
ます。そんな「大きいばあ」を見みて、ママは
笑わらいながらみんなの名前なまえを教おしえてあげま
す。ずっと一緒いっしょにくらしていたのに忘わすれて
しまったのは、さみしいけれど元げん気に長なが生
きしてくれてるだけでうれしごと、ママは
言いいます。ぼくも「大きいばあ」を見みている
と何なんだかうれしい気持きもちになります。



分かっているの。

落ちこんでいるけれど、飼っている2匹
 のしわざがらむと1匹入いきまします。する
 と、分かっているかのようじ、こっちをむ
 いて「大丈夫だよ」とはげましてくれてい
 るようです。こしもしわざの1匹はく
 と、とてもうれしい気持ちになって、家族
 みんなをいちゃしてくれる存在です。はじめ
 はいわがっていたけど、今では、この家の
 『アイドル』です。遊ぶでいるときも、つか
 ねてねじるでいるときも、こしもかわい
 いです。



お母さんのためいき

お母さんが、ためいきをついたので、私は「どじしたの？何かあった？」ときいてあげました。「〇ちゃんには関係ないから。」と言われたので「そっか。」と答えただけ。ど、心の中では、「そっか。」「で終わってはいけないと思ったので、かたをもんだり、お手伝いしたりしてお母さんのつかれを少しなくしてあげました。私が困っていたら助けてくれるので、」おたがい様だよ。「と笑顔で言ったら、「助けてくれてありがとう。」「と言われました。」



まちがいは宝物たからもの

私わたしのおじいちゃんは、塾じゅくの先生せんせいや校長けいちょう先生の経験けいけんがあるので、勉強べんきょうにはきびしい人でした。そんなおじいちゃんの口くちぐせが、

「まちがいは宝物たからもの」です。

私わたしが問題もんだいをまちがえるど、いつもそういつてくれます。

一度失敗いちどしっぱいしても、それを活かいかすことで、次起つぎおここらないようにする。まちがい以外いがいにも、自分の短所たんしょなども大切たいせつに、宝物たからものにすることをおじいちゃんに教おそわりました。私わたしは、自分のまちがいを大切たいせつにしたいと思おもいました。



声のなごあこわし

わたしは、放課後遊びに行くとき、道路をわたろうとしていて車がなくなるとを待っていたら、車がとまってくれておじぎをすると、相手の車にのっていた人も笑顔でやさしそうにおじぎをしてくれました。わたしはそれを見て、心が温かくなり、その日は楽しく過ごせました。そんな言葉も言わずにおじぎをしただけでも、気持ちがいもつていれば、「相手に伝わるんだな」と思いました。これからも、相手が笑顔になるようなあいさつを続けたいです。



お父さんの帰り

私のお父さんは、よく仕事（しごと）が長（なが）びいて帰（かえ）ってくる時（とき）が遅（おそ）くなります。そのころの時間（じかん）は、私（わたし）たちがねている時間（じかん）の時（とき）もありま（す）。ある日（ひ）、私（わたし）は眠（ねむ）りにつけなくベッドの上（うえ）で目（め）をどじていたら、お父（ちち）さんが帰（かえ）ってきました。私（わたし）は、びっくりにして眠（ねむ）ったふりをしていたら、私（わたし）たちの部屋（へや）に入（はい）ってきま（した）。するとお父（ちち）さんが、私（わたし）の頭（あたま）をなでてくれました。その時（とき）、お父（ちち）さんは、『ただいま。』と言（い）ってくれました。私（わたし）は、とても嬉しい気持（きもち）ちと幸（あ）せな気持（きもち）ちでいっぱいでした。「お父（ちち）さんはいつも頭（あたま）をなでてくれたんだ」と思（おも）って、次（つぎ）は自分（おれ）からお父（ちち）さんに『お帰（かえ）り』の気持（きもち）ちを伝（つた）えたいと思（おも）いました。



宿泊研修での出来事

去年、宿泊研修があつて、私はちょうど
 その日が誕生日でした。活動が終わつたあ
 と、部屋で過ごす時間がありました。その
 時に、同じ部屋の友だちが、電気を消して
 「誕生日の歌」を歌ってくれました。私のた
 めに事前に企画してくれていたそうです。
 みんなが、私のことを思ってくれているこ
 とが伝わってきて、心がぽかぽかになりま
 した。また、思いやりの大切さに気づかさ
 れました。これからは、私も誰かのために
 行動したいと思います。



友だちからの応援

塾の勉強で忙しい時に、わたしの友だちから手紙とキーホルダーをもらいました。もらった時にわたしははなかつたため、母から「勉強でストレスになっている時にさわって。」と聞きました。キーホルダーを見みると、大好きな犬の肉きゅうを「ぷにぷに」とさわることができる物でした。わたしのことを思って温かく、優しい気持ちを感じ、さわっているとAちゃんやんが横で応援してくれている気がし、前向きな気持ちになりました。



「がんばれー!」

四年生の夏休み、家の庭で縄跳びの練習をしていた時の話です。私の家からは幼稚園が見え、家に帰る時間だったのか、幼稚園の子たちが外に出ていることに気がつきました。幼稚園の子も、私に気がついてくれて、縄跳びがうまく跳べなかった私に、「がんばれー!」と大きな声で応援をしてくれました。恥ずかしくてお礼も言えませんでした。とてもはげましになりました。



おじいちゃんとお風呂

ぼくのおじいちゃんは、目が見えません。

だから、ぼくは、おじいちゃんとお風呂に、よく入ります。そして、おじいちゃんに、シャンプーやボディーソープの場所をおしえてあげます。

そして、おじいちゃんは、うわてて、「あじがよい。」と言ってくれます。

これからも、おじいちゃんの手だけをしたいです。そして、おじいちゃんと同じように他の方々にもやさしく接して、常に「やさしい心」を大切にしたいです。



中学生

生徒会執行部

夏休みが終わり、一年生からも学年で一人、生徒会執行部に入ることになりました。

ぼくは、やるかやらないか決断できないでいました。しかし、今の気持ちを先生に伝えると、「君は、まかされた役割を最後までやって、しっかりとした思いをもってやるから心配ない。」という言葉をかけてもらったことで前向きになることができ、自分のこれまでの行動が自信に変わり、挑戦してみようという気持ちになりました。



魔法のお手伝い

私は母に、「お皿洗いやっておいて。」と言われました。めんどくそそうだし、本当はやりたくないなと思いつつも、「分かった。」と返事をしました。けれどやり始めると、とーとーのお皿が徐々に綺麗になっていき、片付けられていくことがなぜか、とつてもスッキリするなと思いました。そして終わった後、母に「ありがとう。」と言われると、心が温かくなりました。そんな魔法にかかってからは、毎日お手伝いを続けています。



わらびなご言葉

私は、おばあちゃんがいつもかけてくれる言葉が大好きです。

学校に行く前には「いってらっしゃい。気をつけてね。」と声をかけてくれたり、帰ってきたときには「おかえり、暑かったね。」などと声をかけてくれたりします。その言葉にはいつも、おばあちゃんの気持ちですべてつめ込んであるような気がして、さびげない言葉でも、うれしくなったり「がんばろう」と思えたりして、あたたかい気持ちになります。



『笑顔』

「すごいね。よく頑張ったね。」夏のそろばん大会、中高生の部で、特賞をとることができた。賞をとった時ももちろん嬉しかったけれど、家に帰って賞状を見せた時、家族のみんなが笑顔で「すごいね。」「頑張っていたもんね。」と何度も言ってくれた。

私のこれまでの頑張りをみていて、ずっと応援してくれていた家族の言葉がとても嬉しかった。私のことを私よりも喜んでくれる家族の『笑顔』が、私の頑張る力になっている。



中学生

できなかつたって大丈夫

私は、自分のできていないことに目がい
き、自信を持っていませんでした。そんな
時、母から「今日何か一つでもできたら、大
丈夫」「人は人、自分は自分」という言葉を
かけられました。私は、その言葉のおかげ
で少しずつ、自分に自信を持てるようにな
りました。これからも「大丈夫」を合い言葉
にポジティブに考え、毎日を明るく生活し
ていけるようにしたいと思います。励まし
てくれた母に改めて感謝したいです。



思いやりをもつ大切さ

ある将棋道場を訪れた時、目の不自由な方が、将棋をしているのに気が付いた。その方は、慣れた手つきで駒を触り、判断する。盤面がどうなっているのか、頭の中で想像できていることに感心した。一方で、対戦相手の方は、自分がどこに指したのか、一手一手読み上げていた。その対局は、僕が心配するまでもなくスムーズだった。対戦相手が変わっても同じことだった。相手を手を思いやる気持ちがあたり前の道場で、なんだかうれしくなった。



優しい空間

今年の宿泊研修の目標は、「優しく厳しく」でした。「厳しく」とあるから、仲間が何か間違ったことをしたら、注意や呼びかけをしないとイケません。でも、宿泊研修では注意のしかたが、相手が傷つく嫌な言い方ではなく、「切りかえて」「気をつけてね。」など優しい言い方でした。このように、相手に厳しいことを言うときは、言い方だけで、言った方も言われた方も傷つかない、優しい空間が広がるんだと感じました。



中学生

ちよつとデレが出た妹

私の妹は、いわゆるシンデレラです。一緒に犬の散歩に行こうと誘っても、「行かない。」で済まされます。世間話をしようとしたとしてもそっけない態度をされます。あの日、私が部屋で本を読んでいると、妹が部屋に入ってきて、また出ていきました。そしたらまた戻ってきて、「どうしたの？」と聞いたら、「Hが熱中症で倒れたら嫌だ。」と言いつ換気をし、出ていきました。いつもは冷たい妹のたまに出る優しさが、私は大好きです。



中学生

東京ディズニーランド

修学旅行でディズニーランドに行った
ときのこと。グループの友だちが乗り終わ
るのを待っていると、隣に二歳と二ヶ月の
子どもを抱っこしたお父さんがいた。赤
ちゃんが落ちそうになったので代わりに
一時間半くらい抱っこして一緒に待つて
いた。アトラクションを終えると、子ども
のお父さんが「ちよつと待つて。」と言っ
て、ジュースを買ってきてくれた。お礼と
修学旅行楽しんでねと
メッセージが書かれた
手紙が添えられていた。



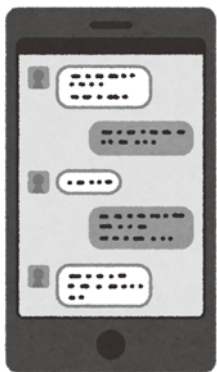
猫はかすがい

子（こ）はかすがいと言（い）いますが、我（わ）が家（や）で
 は、「猫（ねこ）はかすがい」です。父（ちち）と母（はは）が険（けん）悪（あく）な
 雰（ふん）囲（い）気（き）になつたり、兄（ま）妹（い）喧（けん）嘩（か）が勃（ぼ）発（はつ）したり
 したとき、か（か）な（な）り（り）の確（かく）率（りつ）で、猫（ねこ）が、間（ま）に割（わ）り
 込（こ）ん（ん）で（で）き（き）ま（ま）す。そ（そ）う（う）す（す）と、な（な）ぜ（ぜ）か笑（わら）え（え）て
 きて（きて）し（し）ま（ま）つ（つ）て、い（い）つ（つ）の（の）間（ま）に（に）か仲（なか）直（なお）り（り）して（して）し
 ま（ま）つ（つ）て（て）い（い）ま（ま）す。い（い）つ（つ）も（も）我（わ）が物（もの）顔（かお）で（で）いた（いた）ず（ず）ら
 ば（ば）か（か）り（り）の（の）猫（ねこ）で（で）す（す）が、一（い）つ（つ）い（い）つ（つ）と（と）き（き）は、家（か）族（ぞく）
 全（ぜん）員（いん）猫（ねこ）に頭（あたま）が上（あ）がり（が）り（り）ま（ま）せ（せ）ん。



言葉

私が辛くて苦しくて、何もできなかった時、親友からメールがきた。内容は、一言。「話したい時に話してね。」だった。色々な人は、「何かあったの?」「大丈夫?」しか言ってくれなかった。その言葉は、私にとって苦しさが増す言葉だった。でも、親友の言葉だけは、少しでも気が楽になった。結局は、話せなかったけど、今でも心に残っている出来事だった。



世界一周の約束

将来、大人になったらやりたいこと

いて友だちと話していたときのことで

私が、

「世界一周旅したいかな。」

と、半分冗談で言ったことに対して、

「じゃあいつしよに行こうか。」

と笑いながらやさしく返してくれました。

将来大人になっても友だちでいるのが当

然のように話をしてくれて、すぐくうれ

かったし、一生付き合っ

たいなあと思いました。



「散歩日記」

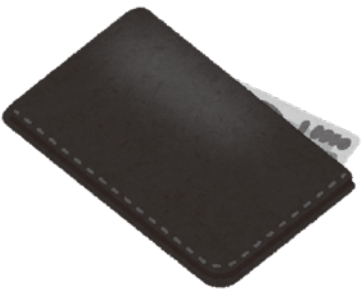
もうすぐおじいちゃんの一週忌です。そのため、おばあちゃんの家に行きました。おばあちゃんの家机には、「散歩日記」というものが置いてありました。「散歩日記」とは何かおばあちゃんに聞きました。それは、おじいちゃんが散歩に行った日に、今日思ったことを書いていたものだったそうです。読んでみると、私が勉強を頑張っているという内容でした。それを読み、「散歩日記」のおかげで、勉強を頑張ろうと励ましになりました。



落とし物

駅のホームを歩いていっていると、前を歩いていた人のポケットから何かが落ちた。お財布だった。私は走って取りに行き、その人に声をかけた。「あの、すみません。お財布落とされましたよ。」「その人はとても申し訳ない顔で受け取った。」「ごめんなさい。ありがとうございます。」「と、とても深いお辞儀をした。お礼にと言って、小さな飴玉をくれた。

行きの電車でもらった飴玉をなめた。その飴玉は、今までいなくらいとても甘かった。



苦手だとしても

私は、昔から初対面の人と話すことが大
 の苦手でした。先日、地域のバスを利用し
 た際に、席をゆずらないといけないかもし
 れない時も、なかなか心の準備ができてい
 ませんでした。満席の中、ご年配の方が乗
 られて、本当に考えていたことが起り、
 一瞬「すぐ降りるからこのままで…」と思
 いましたが、勇気を出して声をかけまし
 た。すると、満面の笑みで「ありがとう。」と
 言われて、私は、人のために勇気を出すこ
 との大切さを知りました。



中学生

繋がった！

祖母の家の近所でやる花火大会を、親戚と一緒に見に行きました。屋台を回ろうとすると、人がいすぎてなかなか前へ進めませんでした。

そんな中、前を歩いている人の肩に手を乗せ、進んでいる人たちがいました。友だち同士なのかなと思っていたら、その中の一人の人が、「知らない人と繋がってる！すごい。」と言ったのが聞こえて、周りの人の空気が和やかになりました。その後、さらに長くなる列を見て、人と繋がるのはいいことだと思いました。



中学生

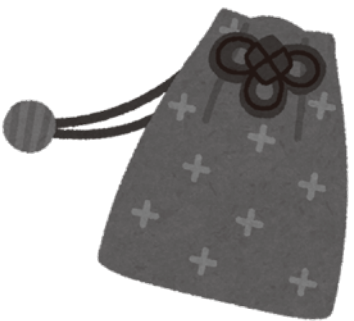
母

これは、私がいっぱいいっぱいになって
いるときの母の話です。勉強、学校生活な
ど、私がいっぱいいっぱい疲れた様子を
見せると、母は決まって「頑張ってるね。」
と声をかけてくれます。「頑張れ。「でもな
く、「頑張ったね。「でもない。私が、弱音を
吐いても、決して「もうやらなくてもいい
よ。」とは言いません。何を言っても、結局
は最後までやりとげる私のことをよく分
かってくれている母の声かけに、私はいっ
も助けられます。



ひいおばあちゃんの巾着

僕は、ひいおばあちゃんの家に行った時、とても古い巾着を見つけてました。「これは何?」と尋ねたら、「私の一番大切なものだよ。」と教えてくれました。ほかにも大切な物はいくらもあるのになぜ?と思った僕はそのことも聞きました。すると、僕が2歳の時、亡くなったひいおばあちゃんから、若い時にもらった物だそうです。そんな前の物を、今でも大切に使っているのは、素敵だなと思いました。



個性を大切に

私は、小さいころからアトピー性皮膚炎で、肌が少し荒れています。アトピーのせいで出来ないこともあるし、肌を見られるのが嫌で誰にも会いたくない時もあります。誰かが心無い言葉を言うてくることもあります。そんな中でも一人の友だちはいつも「恥ずかしくなることなんて何もないじゃん。それも一つの個性なんだから。」と言ってくれます。そういう言葉「自分で信がつき、勇気が出ました。これからも、個性を大切にしたいです。」



ちよつとしたことの大切さ

それは、私の父がインドカレーの店で会計をした時のことだった。店員さんが、間違えておつりを百円多く渡してしまったのだ。父はそれに気づき、その事を店員さんに伝え、退店した。私は、なぜそつしたのかを父に尋ねた。それに対し、父は「伝えなかつたら百円を得てもそれよりもっと価値のある物を失うだろう。プライドとか人間性とかね。」と返してくれた。その出来事を通して、私は「人間性はお金よりももっと重要なんだな」と実感した。



自分の成長

自分が入学して制服に袖を通した時、その制服は自分のサイズに合っていないく、とてもぶかぶかでした。しかし、今となっては、そのぶかぶかの制服は、身長が伸びたので、お婆ちゃんが自分の背丈に合うように直してくれていました。すると、また新しい制服になったような気がしました。入学当日を思い出し、気持ちを一新して、学習などに力を入れて頑張りたいと思います。お婆ちゃん、ありがとうございました。



あじがとじの一言

ぼくには、生まれつき自分で動くことができない肢体不自由な兄がいる。今まで、家族が兄の介護をしていたが、僕が中学に入ると、力も体格も大人に近づいたことで、兄を抱っこして移動できるようになって来た。そのため、家にいるときは、兄の介護を手伝っている。そのため、家族はもちろん兄の施設の人にも「ありがとう。」「助かるよ。」「などと書いてもらえ、うれしくなり、今でも続けています。これが僕のちよつといひ話です。



母からの一言

私は、中学校でいじめにあった。そのいじめは、私の心を深く傷つけるものだった。誰にも相談できなかった時、母が「最近、学校楽しい？」と聞いてきた。今までのことを全て話した。母から一言目にかかれた言葉は、「私は、あなたの味方だから。」その瞬間涙が止まりませんでした。一人じゃないんだと思えた。そんな言葉があったからこそ、今は楽しく学校に行けるし、友だちとも楽しく過ごせています。私は、そんな母に心から感謝しています。



中学生

笑顔

私がよく行くコンビニでは、外国からの留学生がアルバイトをしています。

その留学生はいつも一生懸命です。言葉遣いは、少し分かりにくいところもありますが、気が持ちは伝わります。

トイレ掃除やゴミ箱の掃除もとても丁寧です。

そんな留学生達が、日本での生活に満足できて笑顔で「ごちそうさまね。」と言ってくれるのがいいですね。でも続けると良いと思います。



「コップの水を思い出して

私は、ずっと周りの目を気にしてばかりで、ネガティブ思考だった。そんな時に、母が私に「コップに半分の水が入っている。それを半分しか入っていないと考える？それとも半分も入っていると考える？」うやうや何事もポジティブに捉えればいい。そうしたら辛くなくなるから。また「コップの水を思い出して。」と言った。今でもネガティブ思考は治ってないし、辛いなる時もあるけど、それを意識するやだいぶ辛くなるのが少なくなった。



中学生

乾杯 かんぱい

父は、毎週日曜日に、必ずビールを飲みます。それは家族そろって食卓を囲む日。その日しかないからです。毎回決まって私がビールと冷えたコップを持っていき、自分もお茶をそそぎます。すゝめと父は

「乾杯！」

と毎回言ってくれます。父が言うと、私も楽しそうに言います。平日は、母と2人だけの食事なので少しでも盛り上げるのでとても楽しいし、明日からも頑張ろうと思えます。



たまにある一日の日常

まず朝ご飯を食べて、身支度して朝ランをする。そして走っているルートに犬を連れたおばあちゃんが居る。そして出会ったら、挨拶をする。すると、笑顔で挨拶を返してくれる。その後は、天気の話や犬を触らせてもらったりと他愛のない話をよくする。その話の中に「勉強頑張りや」とか「部活頑張りや」など優しい応援があるのでついつい喋りたくなる。そして、そういう時に犬が吠えるので、犬からも応援してもらってる気がして嬉しー一日。



高校生

アルバイト

私は、「コンビニでアルバイトをしています。コンビニには、様々なお客様が来店されます。私がいつも通りレジの所に立っている時、足の悪いお客様がレジにみえました。私は、そのお客様が帰る際、出入口のドアを開きに行きました。すると、お客様は「優しいね、どうもありがとうございます。」と言って帰られました。アルバイトはとても大変なことが多いので、その一言がとても嬉しかったです。私も優しい声かけをもっとしていきたいです。」



あたりまえに感謝する

私は夏休み、体調を崩してしまった母の代わりに、家事をやっていました。洗濯をしたり、お皿を洗ったり、ご飯を作ったり。やり終えると、母は私に、「ありがとう。」と伝えてくれました。すごく嬉しかったのですが、毎日あたりまえのように、この大変な家事をしている母に、私は感謝を伝えられていたのかを考えました。私はこれから、身の回りのあたりまえに感謝を伝えて、ほっこりする人が増えていくようにしたいなと思うことができました。



友だち

学校帰り、私は親友と公園で迎えの車を
 待っていました。その時ちょうど、公園の
 近くに住んでいるおじいさんが、おじいさ
 んの友だちとお茶会をした帰りでした。そ
 のおじいさんたちが私たちをみて、「僕ら、
 中学時代からの友だちなんよ。もう50年く
 らいの付き合いかな。友だちは一生ものだ
 から大切にしなね〜」と声を掛けてくださ
 いました。そのおじいさんたちの長年の友
 情と、私たちに気さくに話しかけてくれる
 明るさと優しさに心温ま
 りました。一緒にいた親
 友をこれからも大事にし
 ようと改めて思いまし
 た。



高校生

何年経っても
なんねんた

「駅前の河川敷で犬の散歩をしていたとき、お年寄りの夫婦が手を繋いで歩いていました。「今日は天気がいいね。あつたかいね。」と話していた時にすれ違いました。「こんにちは、かわいいわんちゃんだね。」と声をかけてくれました。他愛もない会話だったけど、とても心が温かくなりました。私も何歳になっても手を繋いでお散歩できるような素敵な夫婦になりたいなと思えました。」



義母と娘のちいこ

義母が病気になる、とても落ち込んでい

た時、娘が

「私が研究者になって、ばあばの病気を治

す薬を開発してあげよう。」

と言いつつ、義母が

「それなら、がんばらんといいかね。」

どうして二人のやりとりを近くで聞いてい

て、とても心が温まりました。

そして、娘の成長にとっても感動しまし

た。



癒しのことば

私は現在、単身赴任で家族と離れて暮して二年目になります。今まで離れて生活をしたことはなかった為、とても淋しい毎日ですが、週末は片道二時間半をかけて自宅に帰ってきます。そんな時、家族から言われる「おかえりなさい」や、翌朝の「いってらっしゃい」という、他人からすれば何気ない言葉が、私には癒しのことばとして胸に刺さり、長い移動距離の疲れが飛び、また今週もがんばろうと力を与えてくれます。



お兄ちゃんたちの背中

我が家の子どもたちが小さい頃、公園に遊びに行った時の話です。小学校高学年かと思われる男の子たちが、かなり活発に遊んでいました。我が子が周りで遊ぶと危険かなと思いい、少し離れようとしていた時、小学生たちがこちらに気付いて「ボールはここで投げるのは禁止、小さい子の側では追いかけて合うのはやめよう。」などと声をかけあってくれたのです。あのお兄ちゃんたちの背中を、子どもたちが追いかけて育ってくれたら、と願った出来事でした。



早く大きくなりたい

職場で店長になったばかりのころ、売上の高いお店で慣れない店長業務で毎日疲れて家に帰ってきました。

ある日、息子が「早く大きくなってお仕事できるようになりたいな。」と言ったので、「どうして?」と聞くと、「ママ、毎日お仕事大変そうだから、ママのお手伝いしたい。」と言ってくれました。

毎日、疲れた、大変と言っていたんだなと思うと同時に、息子の優しさに心が温まりました。



令和5年度 ちよつといひ話

令和5年 12月発行

編集 岐阜県環境生活部 人権施策推進課

〒500-1857

岐阜県岐阜市藪田南2-1-1

TEL 〇五八-二七二八-二五〇 (直通)

FAX 〇五八-二七八-二六一五



人権ミナモ

岐阜県環境生活部 人権施策推進課

※この冊子は、法務省委託事業により作成されています。